

## 「仕える姿 ディアコニア」 ～知恵と知識 賢さとズルサ 面倒くさい～

ヨハ12：24～27

「子供は力がない」「クッキーは甘い」・・・私たちはこういうことを「当たり前」に思っています。この「当たり前」が私たちの人生を変えます。私たちは「知識」ですべてのことを判断してしましますが、私たちがこれまで通った道がそれぞれ違うのでこの知識がみんな違うのです。そしてこの知識がもし嘘だったらそれはとても怖いことです。(ヨハ12：24～27)「今わたしの心は騒いでいる。何と言おうか。『父よ。この時からわたしをお救いください』と言おうか。いや。このためにこそ、わたしはこの時に至ったのです。」(27)自分で自分の考えを考え直す、そんな風に考える人は最近あまりいません。私たちのスタンダードがスタンダードで疑うことがありません。私たちは3歳くらいから「自我」を持ち出します。これは自分を守る本能なので生きていくために大切なものですが、この自我のために傷つくのです。「自分はこう思うが、相手にわかってもらえない」これが人にくたびれと悲しみをもたらします。そんな私たちにイエス様は仕えるためにこの地上に来ました。「仕える」・・・イエス様の仕え方は地に落ちて死ぬということです。シメオンは無理やり兵隊に言われてイエス様の十字架を担がされました。最初はいやでしたが、だんだん心が変わり、イエス様について行く人になりました。イエス様に出会うと自分が正しいと思っていたことが本当に正しいのかなと思うようになるのです。当たり前だと思っていたことが当たり前でなくなるのです。日本のことわざに「聞くのは一時の恥、聞かぬは一生の恥」というものがあります。聞こうという姿が知恵であり、聞こうとしなくするのが知識です。知識が大きくなると聞けなくなります。「知識は人を高ぶらせ、愛は人の徳を建てます。」知識は怖いのです。(1コリ8：1)(マル10：45～52)「仕える」(ディアコニア)という言葉には、奴隷が全く自分の意思を殺してただひたすら主人のために仕える、「給仕」という意味があります。(ルカ22：27、28)仕事を何のためにしているのかと聞かれると「生活のため」と答える人が多いですが、こんな風に「生活のため」に仕事をしていると面倒くさくなり、やばいことがあるとそこから逃げたくなるのです。面倒くさいからです。こういう経験が私たちに蓄積されると、自己防衛本能で面倒くさくなるのです。私たちは正しいことをしなくてはという思いではなく、面倒くさくしたくないからするというふうに「面倒くさい」が原動力になってしまうのです。「面倒くさい」「だるい」こんな事を言っていると何をするのも面倒くさくなってしまいます。そしてこれが私たちの人生の本来すべきことから遠のけてダメにしてしまいます。誰でも人のためにすることで傷ついた経験があるのです。そこから人のためにするのが面倒になるのです。悪いことされたことは覚えていてもしたことは覚えていない、あげた事は覚えていてももらった事は覚えていない、これが「面倒くさい」の原動力です。アダムがイブのせいにした、その時から人とかがかわるのが面倒になったのです。だけど私たちは一人では生きていけないのです。だから**①服を脱ぎ捨てる・・・知識**。バルテマイは目が見えず物乞いの生活を何十年もしていました。人々にバカにされて生きてきて、心がズタズタだったはずですが。そんな彼が、イエス様が来たら突然大騒ぎでした。イエス様に叫んだときにみんなにたしなめられたとあります。しかしそれに聞かすます「助けて」と叫びました。そして服を脱ぎ捨ててすぐに出て行ったのです。古い知識で生きることをやめたのです。私たちも服を脱がないといけません。私たちの心に着ている服をとり、私たちの今までの価値観、常識をおいて「どうしたらよいでしょう」と神様に聞くことが大切です。そしてバルテマイもイエス様についていったのです。イエス様についていくと古い服が見えるようになります。生きていくと赦せないこともあるかもしれませんが。しかし私たちが赦さないでいると、私たち自身がいやな服をずっと着ることになるのです。「あなたはこう」といわれた服をおろさなくてははいけません。本当の姿を見ましょう。**②面倒くさいに知恵**。生まれたときからアダムとイブの原罪ゆえに自分中心を持っている私たちは何をするのも面倒くさいのです。でもこれに知恵をつけるとよくなります。改良は面倒くさくしないとできません。面倒くさいと思った時、「今面倒くさいです。神様どうしたらいいですか？」と聞いてください。(詩篇73：1～3、15～17)ダビデが知識で生きていたとき、周りは栄え、自分がうまくいかないのを見て「面倒くさい」と思っていました。しかしそれをやめたとき、そのあと神の奥義を知ったと言っています。神様の知恵がわかったのです。私たちが今通っている「面倒くさい」は神の知恵を生み出す最大の方法です。悪を悪のままにしたら意味がありませんが、神様と一緒にいれば無から有を生み出すことができるのです。神様は私たちに意味を教えてください。**③イエス様について行く**。私たちの問題はすぐには解決しません。しかし私たちの心はどんどん変わっていきます。ついていくべきものを見失っているから面倒くさくなるのです。そうなる何かの利益のためにしようとするのでそれは苦痛でしかなくなるのです。そうなる自分がやっていることがムダに思え、ムダなのにやらされている、この我慢が面倒くさいとなるのです。私たちから「面倒くさい」をとるにはイエス様についていくのが一番早いのです。ついていけるのはイエス様が十字架に向かっていったからからです。彼は私たちの痛み、罪を全て背負って十字架に架かったのです。イエス様はこの十字架を通して私たちの人生をむしばむ「面倒くさい」という思い、逃げたいという思いに力を与えたいのです。今日から私たちの古い服を脱ぎ、面倒くさいという思いを捨て、イエス様についていきましょう。(要約者：岩崎 祥誉)